

令和5年2月9日

鹿児島地方気象台

高層気象観測機器の飛揚を自動化します

1. 概要

鹿児島地方気象台では、毎日2回、手作業により気球に観測機器（ラジオゾンデ）を吊り下げて飛揚し、地上から高度約30kmまでの気圧・気温・湿度・風向・風速を観測しています。得られたデータは日々の天気予報等に利用されています。

近年、線状降水帯等による顕著な大雨によって甚大な被害が発生しており、気象庁では予測精度向上を喫緊の課題と位置づけ、取り組みを進めています。その一環として、顕著な大雨が予測される場合に高頻度の高層気象観測が実施できるよう、鹿児島地方気象台に自動放球装置を設置し、観測機器の飛揚を自動化します。



図1 手作業（左）及び自動放球装置（右）による飛揚風景

2. 自動放球装置の設置場所について

自動放球装置は、気象台のある鹿児島第二地方合同庁舎の敷地内北側露場近くに設置し、令和5年2月28日から運用を開始します。



図2 自動放球装置の設置場所

3. 高層気象観測の運用について

通常は毎日8時30分頃と20時30分頃に観測機器を飛揚し、高層気象観測を実施しますが、顕著な大雨など悪天が予測される場合には観測の回数を増やします。

また、風の状況等により観測機器が周辺施設に接触する可能性がある場合は、飛揚を中止するなど、安全には十分配慮した上で飛揚を実施します。

4. 観測機器を見つけたら

観測を終えた観測機器は、パラシュートによってゆっくり降下します。まれに地上に落ちることがあります。もし「気象庁」と書かれている観測機器を見つけた場合には、お手数ですが観測機器のラベルに表示されている連絡先へご連絡ください。

【参考：気象庁ホームページ】気象庁 - ラジオゾンデによる高層気象観測
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/upper/kaisetsu.html>